



以律志府娼妓規則

1645



414  
A 2785

比律賣淫規則

第一章

娼妓淫賣ノ事〇帳簿ニ記入スル事〇  
帳簿ヲ除名スル事

第一條 平生賣淫ヲ業トスル處女又ハ婦人ヲ娼妓ニ云フレ  
娼妓ヲ二等ニ別ツ左ノ如シ

第一 貸座敷住居娼妓即官ヨリ忍許セル貸座敷ニ寫  
スル者ヲ云

第二 自宅住居ノ娼妓即各私ノ家ニ住居スル者ヲ云フレ

第二條 前條娼妓ハ彼是ヲ論セズ別段ニ設ケタル施醫局  
ニ於テ各員ノ名前ヲ登記ス可シ其局ニテハ前二等ノ娼妓  
ヲ分テ別段ノ帳簿ニ登記ス可シ  
其局ノ掛リノ者ハ各警察區並各小區ヲ別テ記入ス可シ

大正十一年四月  
隈侯爵邸

第三條 「アールメスル」區並「エシユバシ」各區内ノ警察並ハ各娼妓ノ親ヨリ又ハ職務上ニ於テ名簿ニ登記ヲナス可シ

第四條 名簿ニ記入セサル賣女ハ警察局ニ呼出サレテ質問セラル可シ若シ名簿ニ登記ス可キハ第二第三款ニ從テ登記ヲ取扱フ可シ  
初テ呼出ヲ受ケタル片之ニ從ハサル者ハ第四十九條ニハル刑ヲ以テ處ス可シ

第五條 娼妓ノ名簿ハ登記ノ番号、姓名、年齢、出產ノ地、寄留所、其本籍ノ地、以前ノ職業及賣淫スルニ至リシ原因ヲ記ス可シ

通行鑑札、出產證書並其他登記シタル娼妓ノ身上ヲ証ス可キ書類ハ警察局ニ預ケ置ク可シ

各娼妓ノ預リ書類ヲ各一纏メニナシ置ク事

第六條 名簿ニ登記シタル後各娼妓ニ一ノ手控<sup>カレ子</sup>ヲ渡シ置ク可シ

手控<sup>カレ子</sup>ハ名簿ニ記入シタル事ノ大略及其人相書ヲ記シ本人ノ記名シ得ルキハ姓名ヲ手署セシム可シ

私宅住居娼妓ニ渡ス可キ手控ニハ首葉ニ其規則ヲ行シ置キ名簿ニ登記スル片之ヲ讀聞カス可シ

第七條 其手控ヲ各娼妓ノ間ニ貸借スルヲ嚴禁ス各娼妓ハ邏卒ヨリ之ヲ求ムル片ハ必ス之ヲ出シテ示ス可シ

モシ之ヲ失フ片ハ更ニ願出テ之ヲ受取ル可キ事

第八條 貸座敷住居並私宅住居ニ拘ラズ各娼妓ノ住居ヲ變シト欲スル片ハ施醫局ニ届出テ其局ニテハ直チニ警察局ニ報知シ且手控ヲ出シ現ニ住居スル地ノ警察使並轉居セント欲スル地ノ警察使ノ檢印ヲ受ク可シ

轉居セント欲スル片ハ臨時ノ檢査ヲ受ク可シ娼妓ノ意ニ  
ヨラザル原因アルニアラザレハ一月内ニ再轉寓スルヲ許  
サズ  
以上記スル處ノ娼妓ノ届ノ外其戸主ハ千八百三十一年十  
月十五日ノ警察指令ニ記スル貸屋戸主ノ義務ヲ盡ス可キ  
事

第九條 貸座敷住居娼妓ハ何時ヲ論セズ必ス自由ニ其  
ヲ去ルヲ得可シ但シ前條ノ規程ニ從フ可シ若シ其戸主  
娼妓ノ去ルヲ拒ミタル片ハ以下ニ定ムル處ニ刑ノ重ヲ  
以テ科ス可シ但シ不法ニ禁錮等ヲナシ更ニ重ニ罪アル片  
ノ處分ハ此限ニアラス  
第十條 私宅住居ノ娼妓ハ四等ニ分チ檢査毎ニ左ノ入費  
ヲ拂フ可キ事

4

第一等娼妓

四十サンチーム

第二等同

三十サンチーム

第三等同

十五サンチーム

第四等同 ハ入費ヲ拂ハザル事

トス  
第四等娼妓ハ四十年以上ノ者並一人又ハ數人ノ子ナル者

第十條 私宅住居 娼妓ハ酒類小賣店ニ住居スレバ

第十二條 各娼妓ハ第六條ニ記スル手控ノ入費ヲ左之割  
ヲ以テ拂フ可シ

第一等娼妓

一フラン 五十サンチーム

第二等同

七十五サンチーム

第三第四等ハ

二十五サンチーム

第十三條 娼妓ノ名簿取消ヲ欲スル者ハ「ブールメストル」並「エシユバン」ニ願出ス可キ事

娼妓ノ死去又ハ結婚ノ片ハ職務上ニ於テ願出ルヲ取消ヲナス可シ

第十四條 名簿取消ハ文字ノ全文ノ見ヘサル様塗抹ス可シ

第二章 貸座敷之事〇娼妓私宅ノ事

第十五條 官ヨリ認許スル娼家ニ種アリ

一 貸座敷即貸座敷住居娼妓ノ寄留スル所

二 娼妓私宅即私宅住居娼妓ノ稼業ヲ許サラル、娼家

第十六條 前條二等ノ娼家ハ各三等ニ分ツ

第十七條 貸座敷並私宅共「ブールメストル」並「エシユバン」ノ允許ヲ得ズシテ營業ス可カラズ其允許ハ元來不定ノモ

ウケ

ノニテ何時ニテモ取戻ス可キモノトス

私宅ノ戸主ハ手控ヲ所持シ且規則通り検査ヲ受クル娼妓

ニアラバトハ家又ハ部屋ヲ貸渡ス可カラス

其戸主ハ貸座敷並私宅ヲ同時ニ所持スルヲ得ズ

貸座敷並私宅共入口ノ上ニ着色ノ「カラス」ヲ張りタル圓形

ノ燈ヲ掛ケ置ク可シ但シ其各娼家ノ燈ノ大サ並ニ「カラス」

十色「ブールメストル」並「エシユバン」ヨリ定メ与フ可シ

第十八條 スベテ娼家營業ヲ願出ルモノハ貸座敷カ又ハ娼妓私宅ナルヤヲ申立ツ可シ又必ス「ブールメストル」等定

ムル所ノ規則並指令ニ從フ可キ旨ヲ述フ可シ

第十九條 夫アル婦人ハ夫ノ許諾ナキ片ハ貸座敷並娼妓私宅ヲ開クヲ得ズ

第二十條 娼家營業免許ハ「ブールメストル」並「エシユバン」

允許ナクシテ其免許ヲ得タル者ノ相續人又ハ代權人ニ讓  
リ渡スヲ得ズ

第二十一條 妓樓ハスベニ繁華ノ地又ハ學校其他教育ニ  
管スル建物及教院ノ近邊ニ設クルヲ得ズ

第二十二條 各娼妓ハニ等 娼家ノ窓又ハ入口ニ出ルヲ得  
ズ又窓ハ掛ケ錠子ニテ鎖シ又ハ厚キ帷幕ヲ常ニ掛ケ置ク

娼家ノ戸主等人ヲ淫蕩ニ誘引スルハ嚴禁ナリトス

第二十三條 邏卒ハ貸座敷並娼妓私宅共晝夜ニ切ラズ何  
時ニテモ自由ニ入ルヲ得可シ

第二十四條 娼賣女ヲナス者アルヲ發露シタル片ハ取  
糺ノ上時ニヨリ其婦女ヲ娼妓ノ名簿ニ記入スルヲアル可  
シ

其密賣女ノ戸主ハ裁判所ニ引渡ス可シ

第二十五條 貸座敷戸主ハ前以テ施醫局ニ届ケ出スシテ  
娼妓ノ住居セシムルヲ得ス

第二十六條

第二十七條 貸座敷並娼妓私宅戸主ハ召仕雇女ノ姓名年  
齡ヲ呂ケ置キ五十年以下ノ者ハ檢査ヲ受ク可キ事

第二十八條 各貸座敷ニハ健康警察掛リノ調印シ且毎葉  
番号ヲ記シタル一ノ帳簿ヲ具ヘ置ク可シ

貸座敷戸主ハ其帳簿ニ同居ノ娼妓ノ姓名年齢出產ノ地並  
本籍ノ地名及出入ノ年月並其貸座敷ヲ出タル後行ク可キ  
場所ヲ記入ス可シ

貸座敷戸主ノ娼妓ヲ去ラシメ又ハ娼妓ノ此家ヲ去ント欲

スルルハ其戸主ハ直チニ其旨ヲ施醫局ニ届ケ出テ且其娼妓ノ行ント申立ル場所ヲ申述ヲ可シ

第二十九條 貸座敷又ハ娼妓私宅ニアル娼妓規則通りノ手控ヲ所持セズ且第二十五條並第二十六條ニ記スル届等ヲナササル者ハ第五章ニ記スル刑ヲ受ク可シ

第三十條 貸座敷住居ノ各娼妓借家料食費衣服料等ハ皆主ノ入費ニテ給ス可キ事

娼妓ノ新入ノ片ハ戸主ハ帳簿ヲ作り、其持參ノ衣類ヲ書留メ其帳簿ハ四十八時間内ニ警察使ノ檢印ヲ受ク可シ其帳簿ニ記シタル品物ハ其娼妓ノ承諾アルニテラザレハ用フ可ク、ラズ其品物並自己ノ費用ヲ以テ買求メタル物品ハ其家ヲ去ル片ハ必ス返シ渡ス可シ且其新ニ買求メタル品物ハ二十四時間ニ帳簿ニ記入シ且同ク警察使ノ檢印ヲ

ろ  
ろ  
ろ

受ク可シ

第三十一條 貸座敷並娼妓私宅戸主ヨリ賦金ヲ出シ以テ

健康檢査等ノ片ニ充ツ可キ事

第三十二條 前條賦金拂ヒ方左ノ如シ

貸座敷戸主ハ月々左之通り各區收税官ニ納ル但シ前渡ナシ且何レノ場合ニ於テモ返附スルナシ

第一等貸座敷

娼妓	六人ニテ	六十フラン
同	七人	六十八フラン
同	八人	七十四フラン
同	九人	七十六フラン
同	十人	七十八フラン
十人以上ハ每一人ニツラジツ、ラ増ス可シ		

第二等貸座敷

娼妓 三人

同 四人

同 五人

同 六人

同 七人

第三等貸座敷

娼妓 二人

同 三人

同 四人

同 五人

同 六人

同 七人

二十一フラン

二十六フラン

二十九フラン

三十一フラン

三十二フラン

八フラン

十一フラン

十三フラン

十四フラン

十五フラン

十六フラン

く  
り

右第二第三等貸座敷娼妓ハ每一人ニ付壹「フラン」ツ、ヲ増

シ拂フ可キ事

娼妓私宅戸主ハ月々左ノ如ク拂フ可キ事

第一等

二十五フラン

第二等

十五フラン

第三等

五フラン

此拂方ハ貸座敷賦金ト同様ナリ

第三章 一般ノ警察ノ事

第三十三條 各娼妓ニ禁スル箇條左ノ如シ

第一項 醜体又ハ酔体ニテ戶外ニ出ル事

第二項 入口又ハ窓ニ出ル事

第三項 街路公園等ニ止マリ又ハ寄集マル事

第四項 スベテ路上ニ醜行アル事



第五項 路上人ニ接話隨行又ハ私宅ニ喚込ム事且記号

ニテ喚込ムモ同様ナリ

第六項 口ハルクヲ徘徊スル事

第七項 時限後猶街路ニ徘徊スル事

第八項 警察局ヨリ許サル、場所ノ外劇場其他ノ公ケノ

遊場ニ行ク事

第四章 健康警察ノ事

第三十四條 娼妓ハ毎週二回ツ、健康検査ヲ受ク可キ事

四週間規則通りニ検査ヲ受ケル者ハ検査入費ノ全部ヲ

返シ戻ス可シ

規則通り検査ヲ受ケザル者ハ犯ス毎ニ入費ノ二倍ノ高ヲ

拂ハシメ且一日以上五日以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第三十五條 第一第二等ノ貸座敷住居娼妓ハ別段ノル

ろ 9

メストル及「エシユバン」ノ命令アルル外其住居ニ行テ檢  
査ヲ行フ可シ

第三等ノ貸座敷ニ住居スル娼妓及私宅住居娼妓ハ施醫局  
ニ於テ検査ヲ受ク可シ

然レ氏私宅住居ノ娼妓ハ一回ノ検査入費一「ラン」ノ割ニ  
テ四回ノ入費ヲ施醫局ニ前拂ニナス片ハ各自ノ家ニ於テ

検査ヲ受ルヲ自由ナリ但シ通常ノ入費モ其一「ラン」ノ内  
ニアリトス

第三十六條 施醫局ハ日曜日並祭日ヲ除ク外毎日午前  
第九時ヨリ午後第三時マテ閱局ス可シ

検査ハ午前十一時ヨリ午後二時マテニナス可キ事  
第三十七條 検査ハ假ニ三名ノ醫師ニ委任ス

第三十八條 検査掛醫師ハ何時ニテモ躬ヲ検査ヲ行フ可

シ若シ差支アル片ハ「ブ」レメ「ストル」並「エ」シユ「パン」ノ免許  
ヲ得テ代負ヲ出ス可キ事

第三十九條 検査掛リ醫師二名 前條三名ノ内一人ハ總督  
ヲナシニ名ニテ專ラ検査  
ヲ行ハ貸座敷娼妓並私宅住居娼妓ヲ（一名ツ、）隔月更番ニ  
検査ヲ行フ可シ

第四十條 私宅住居娼妓検査掛リ醫師ハ毎日午前十一時  
ヨリ午後二時マテ施醫局ニ出張シテ各娼妓ノ通常並臨時  
検査ヲ為ス可シ

第四十一條 總督ヲナス醫師ハ少クモ毎半月ニ再検査ヲ  
ナシ通常検査ノ行届ヤ否ヲ検査ス可シ

又日々施醫局ニ検査ヲ監察ス可シ又健康ノ有様ニ付諸事  
「エ」シユ「パン」等各區ノ官吏ト相往復ス可シ

第四十二條 検査掛リ醫師ハ検査ニ付キ娼家ノ戸主又ハ

ろ  
10

娼妓ヨリ謝金等ヲ受取ル可カラス

又戸主雇女並娼妓ヲ何病ニ拘ラズ自宅（醫師）ニ於テ診  
察スルヲ禁ス

第四十三條 醫師ハ娼妓ノ手控ニ検査ノ日時ヲ記ス可シ

醫師ハ其他施醫局並各貸座敷ニ渡シ置ク所ノ帳簿ニ検査  
ヲナシタル娼妓ノ容躰其他検査ニ付テノ犯罪ヲ記入ス可

シ  
其登記ノ尾ニ調印ス可シ

第四十四條 梅毒其他ノ傳染病ニ罹ルト認メタル娼妓ハ  
直チニ醫局ニ送ル可シ

容躰ノ不審ナル者ハ其病質ヲ證スルタメニ診察ヲ受ケシ  
ム可シ

第四十五條 娼妓平愈シテ退局ス可キモノハ直チニ歸宅

大  
歳  
首

セシム可シ其娼妓新タニ手控ヲ受ルヲ望マザレハ元ノ  
手控ヲ返附ス可シ  
第四十六條 娼妓並娼家戸主ハ必ス醫師ノ命ニ從フノ義  
務アリ

何等ノ方法ヲ論セス其醫師ニ對シテ不敬ノ所為アルハ  
直チニ拘引シテ警察官ニ引渡ス可シ第四十九條ニ從テ刑  
ヲ受ク可キ事

娼妓ノ醫師ヲ欺ムクタメニ詐術ヲナシタル者ハ警察ノ刑  
ノ最重ヲ以テ科ス可シ

第四十七條 娼妓ノ正シク検査ヲ受ルヤ否ハ貸座敷戸主  
ニ責任アリトス

第四十八條 娼妓其外取締規則ニ付キ「アールメストル」  
「エシユバン」等ヨリ令スル事ハ娼妓ノ戸主ハ皆遵奉ス可キ

ノ義務アリトス

第五章 罰則

第四十條 刑法及警察ニ管スル一般及各地方ノ法律並

規則ニ定ムル刑ノ外此規則ニ擧ル犯罪ハ五「フラン」以上十

五「フラン」以下一圓以上一圓以下一日以上五日以下ノ禁錮ヲ各罪ノ

情狀並輕重ニヨリ並科シ又ハ一罪ヲ科ス可シ

再犯ハ必ス此最重ノ刑ヲ並科ス可シ

其他各區ノ官吏ハ常ニ貸座敷并私宅娼家ノ允許ヲ一時又

永久取上クルヲ得可シ

第六章 總規則

第五十條 此規則ハ通常ノ方法ヲ以テ頒布及告示ス可シ

大 義 省

此規則書ハ戸主ノ引受ケヲ以テ娼家ノ部屋毎ニ貼付セシ  
ム可キ事  
其貼付方ハ額面ニ入レ「ガラス」ヲ張り且見受ケ容スキ様ナ  
ス可キ事

附則

第五十一條 (畧ス)

千八百四十四年四月十四日比律悉府區會院ニ於テ

「ブールメストル」某

以下例文畧ス

此規則ヲ施行スルニ付キ千八百四十四年七月五日ノ  
日附ヲ以テ「ブールメストル」エシ「ユパン」ハ公告スル規  
則中ニ明擧ス可キ性質ニアラザル左ノ箇條ヲ決定セ

ろ 12

リ

第一節 娼妓ノ事○名簿登記ノ事○同ク除名ノ  
事

第一條 娼妓名簿ノ登記ハ甲乙丙丁ノ雛形(畧ス)ニ從ヒ製  
シタル帳簿ニ記ス可シ

第二條 施醫局ニテハ自意ニ出テ又ハ職務上ニ於テ登記  
ノ廉カラ調書ニ記シ置キ且登記シタル娼妓ニ規則書ヲ讀  
ミ聞カセタル旨ヲ記入ス可シ

第三條 密賣淫ヲナシタルト見受ケタル者ハ警察局ニ呼  
出シ糾問ス可キ事

糾問ノ調書並答辨等ハ警察局ヨリ「ブールメストル」並「エシ  
ユパン」ニ送り其指令ヲ得テ娼妓名簿ニ登記ス可キモノハ  
通例ノ通り登記ス可キ事

其登記ヲナス片ハ賣淫取締掛リノ警察局ヨリ二十四時間  
内ニ「ブール」メストル等ノ言渡言ヲ本人ニ渡ス可シ  
第四條 職務上ノ登記ヲ受ケタル娼妓ハ直チニ施醫局ニ  
出テ手控ヲ受ケ取り検査ヲ受ク可キ事若シ傳染病アルト  
見受ケタル片ハ前條言渡シヲ送達スル片直チニ施醫局ニ  
引出ス可キ事

第五條 未タ登記セサル婦女公ケニ賣淫スル者ハ直チニ  
警察局ニ拘引シテ糾問ス可シ夫ヨリ時ニヨリ送りテ醫師  
ノ検査ヲ受ケシムル「アリ」此場合ニ於テハ警察官吏ハ拘  
引セシ時ノ事情ヲ詳細調書ニ記シ且其婦女自ラ名簿ニ  
登記ヲ込メサレ片ハ第三第四條ノ通り手續ヲナス  
可シ

第六條 各娼妓ニ渡シ置ク手控ハ甲乙丙丁ノ雛形(畧)ニ從

3 13

テ製ス可シ 此手控ハ小形ノ手冊ニテ首葉ニ娼妓規則ニ畧  
記シ第二葉ニ娼妓ノ姓名年齢並ニ人相書ヲ記シ  
次ニ本籍ノ地並ニ轉寓等ノ事ヲ載セ次葉ハ十二月ニ割  
リテ醫師ノ捺印ヲナス毎ニ其容体等ヲ記スル事  
登記シ「ル」娼妓等ヲ變スル 貸座敷住居娼妓私宅住  
居娼妓トナルノ類ヲ云片ハ更  
ニ手控ヲ渡ス可キ事

第七條 登記ヲ求ル婦女ハ施醫局ヨリ委細ニ姓名年齢  
出產ノ地本籍ノ地及賣淫「シ」ト欲スル趣意ヲ問糺ス可シ

第八條 登記ヲ求ル婦女賣淫スルハ自意ニ出テ又自意  
ニ非ザル旨ヲ申立ル片ハ施醫局ニテハ其身位 姉妹  
ハ

スル等ノ親屬ヲ尋問シ直ニ警察局ニ報告ス可シ  
警察局ニテハ其婦女ノ親屬ニ告諭シ且正業ニ就クノ方法  
ヲ指示ス可シ

第九條 千八百四十四年四月「八」日ノ規則第十條ニ從テ  
私宅住居ノ娼妓ハ四等ニ分ツ其等ハ各娼妓ノ年齢並醜美

ヲ以テ分ツ可シ

第二節 貸座敷並娼妓私宅ノ事

第十條 娼家ノ入口ニ掛ケ置ク可キ燈籠ノガラスハ貸座敷ハ紅色私宅ノ分ハ黄色ヲ用フ可キ事

大サハ共ニ徑三十センチメートル許ル

燈火ハ日没ヨリ、時限マテハ必ス點火ス可キ事

第十一條 貸座敷並娼妓私宅ノ分共各三等ニ分ツ左之如

シ

貸座敷ノ事

五「フラン」以上ノ分第一等トス

ニ「フラン」以上五「フラン」以下ノ分第二等トス

ニ「フラン」以下ノ分第三等トス

娼妓私宅ノ事

14

「フラン」以上ノ分第一等トス

「フラン」以上ニ「フラン」以下ノ分第二等トス

「フラン」以下ノ分第三等トス

第十二條 開業免許ヲ願出ル者ハ等級ノ外娼妓ノ代價ヲ

モ申立ツ可キ事

貸座敷並私宅ノ分共願立高ノ余モ代價ヲ高ル者ハ該

區官吏ヨリ相當ノ處分ヲナス可キ事

第十三條 戸主ハ専ラ清潔ニ注意シ各娼妓ニハ各一箇ノ

部屋ヲ與ヘ清潔ヲ保ツニ差支テキ様ナス可キ事

第十四條 各娼妓ノ部屋ニハ常ニ左ノ通り備ヘ置ク可キ

事

一

二

第三節 醫師ノ検査

第十五條 施醫局ノ官吏ハ日々検査ニ出ツ可キ娼妓ノ名前ヲ前以テ紙札帳簿ニアラザニ記シ置ク可シ

醫師ハ其紙札ニ各娼妓ノ名ヲ記入シ警察局ニ送ル可シ

第十六條 娼妓ノ検査ニ出テザルモノハ直チニ拘引シテ

施醫局ニ送ル可シ但シ千八百四十四年四月十八日ノ規則

第三十四條ニ定ムル刑ニ被觸スルト莫ル可シ

第十七條 検査ハ可成丈注意ニ可ク且外科器械ヲ用フ可

シ

第十八條 醫師、戸主又警察官ヨリ請求ヲ受ケ又ハ自ら

傳染病ニ罹ルト疑フ片ハ臨時ノ検査ヲ為ス可キ事

第十九條 醫師ヨリ娼妓ヲ病院ニ送ル可シト命スル片ハ

戸主ハ直チニ馬車ニテ病院ニ送ル可キ事

第四章 総規則

第二十條 娼妓ノ施醫局ニ至リ又其局ヨリ病院ニ至ル片ハ必ス馬車ヲ用フ可キ事

第二十一條 貸座敷並娼妓私宅共警察官ハ時ニ巡察シテ

其規則ヲ能ク行奉スルヤ否ヤヲ検査ス可キ事

警察官ハ巡察毎ニ其調書ヲ警察局ニ出タス可キ事

第二十二條 施醫局ニ於テハ簿冊掛一名ヲ任ス可キ事

其簿冊掛リハ戸主並娼妓 賦金ヲ受取ル可キ事且毎月收

入高ラブールメストル並エシユバニ届ケ夫ヨリ諛府收

税局ニ納ム可キノ命ヲ受ク可キ事

第二十三條 此決定書ハ必ス一部ツ、戸主ニ渡シ置ク可

シ若シ等閑ニ過ル者ハ千八百四十四年四月十八日ノ規

則ニ定ムル刑ヲ受ク可シ

○前規則中千八百五十一年左ノ通り改訂増加ス

第一條 娼妓ハ警察本局ニテ名簿ニ登記ス可シ且貸座敷  
住居ト私宅住居トノ別ニシテ別簿ニ記ス可キ事

此登記ヲナス片ハ二十四間内ニ施醫局並本人ノ住居セン  
トスル區ノ警察使ニ之ヲ報告ス可シ

施醫局ニテハ七報告ヲ受ル片ハ直チニ千八百四十四年四  
月十八日ノ規則第六條ニ定ムル手控ヲ本人ニ渡ス可シ

第二條 各娼妓若シ轉居セント欲スル者ハ前以テ警察本  
局ニ届ケ出ツ可キ事其本局ニ於テハ直チニ施醫局ノ官吏  
ニ報告ス可キ事

該規則第二十八條第三項 貸座敷戸主ノ娼妓ニ定ムル届

亦該本局ニ届ク可キ事

第三條 貸座敷戸主ハ名簿ニ登記セズ且手控ヲ所持セザ  
ル婦女ヲ住居セシム可カラズ

第四條 私宅住居娼妓ハ前掲規則第十七條ニ從テ營業ス  
ル妓樓ノ外遊客ヲ受クルヲ禁ス

第五條 以上ニ記スル規程ヲ犯スモノハ千八百四十四年  
四月十八日ノ規則ニ定ムル刑ヲ以テ罰ス可シ

其規則第二十六條第二十九條及此數條ニ抵触スル箇條ハ  
廢スル事

千八百五十一年六月十四日

○千八百五十五年區會議ニ於テ以前ヨリ見込アリテ  
該年マテ行ハレズアリシ事數條左ノ如ク決定セリ即



私宅住居娼妓ノ私宅ニ遊客ヲ招キ且公街公園等ニ徘徊又ハ寄集スルヲ禁スルノ趣意ナリ

第一條 千八百四十四年四月十八日ノ規則第十七條第三項ヲ左ノ如ク改正ス

娼妓私宅戸主ハ娼妓ニ部<sup>ズ</sup>ヲ貸シ又ハ住居セシムルヲ得

第二條 各娼妓ハ日没後公街ニ徘徊ス可カラス

第三條 前二條ヲ犯スモ<sup>ハ</sup>千八百四十四年四月十八日

ノ規則ニ定ムル刑ヲ以テ罰ス可シ

千八百五十五年十二月廿二日

